

令和3年度事業報告

1 研究テーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

2 研究の現況・進捗状況

(1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及び当該酒造期に使用される原料米の性質をできるだけ早期に把握し、それぞれの原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としている。

主な活動は、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析である。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つ者も会員として受け入れている。現在の会員構成は、263名の個人と8機関から成っている。

酒米研究会及び酒米懇談会については新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、令和3年9月14日(火)にオンラインで実施した。酒米研究会では、各支部間での分析結果の活用方法などについて活発な意見交換を行った。酒米懇談会では、(2)ハに掲げるように、5名の講師先生に様々な観点から話題提供をお願いし、活発な意見交換がなされ参加者にとって大きな収穫になった。また、総会は書面表決の方式を採用した。

令和3年産原料米の全国統一分析については、酒類総合研究所が実施する早期(0次)酒造適性分析のための試料として、酒類総合研究所に試料提供した。酒類総合研究所で実施された早期(0次)酒造適性分析の結果について、詳細な解析を行い本年度の原料米の酒造適性情報として令和3年12月7日付で各支部に報告した。また、12月上旬までに各支部において分析を終了した結果を第1次の速報として令和3年12月16日付で、3月末日までに終了した結果を第2次の結果として令和4年4月14日付で関係者に報告した。

(2) 研究会開催等

イ 令和3年度酒米研究会総会

- ① 開催月日:令和3年7月26日～8月23日
- ② 開催方法:書面表決
- ③ 議案:令和2年度事業報告、令和2年度収支報告及び令和3年度予算案、令和3年度産米の分析計画等

ロ 第47回酒米研究会

- ① 開催月日 令和3年9月14日(火)
- ② 方法:オンライン(Zoom)
- ③ 議案:令和2年度産米分析結果、酒造用原料米全国統一分析結果の活用と分析法の課題、その他
- ④ 参加者 25名

ハ 第44回酒米懇談会

① 開催月日 令和3年9月14日(火)

② 方法:オンライン(Zoom)

③ 講演内容:

1)「酒造好適米『結の香』の栽培と品質評価法の検討」

岩手県工業技術センター 佐藤稔英 先生

2)「酒造好適米『さかほまれ』の育成と普及」

福井県農業試験場 中岡史裕 先生

3)「高温障害米による麴への影響と対策」

株式会社糶屋三左衛門 竹内良和 先生

4)「酒造用原料米の水浸裂傷の定量評価」

黄桜株式会社 高堂泰輔 先生

5)「酒造用原料米のデンプンの老化特性ともろみ経過」

三重県工業研究所 山崎栄次 先生

④ 参加者 120名

(3) 刊行物の発行等

- ・令和3年度早期酒造用原料米全国統一分析解析結果(0次)(令和3年12月7日)
- ・令和3年度酒造用原料米全国統一分析結果(1次)(令和3年12月16日)
- ・令和3年度酒造用原料米全国統一分析結果(2次)(令和4年4月14日)

(4) 研究連絡活動

(4-1)原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に参加しているグループ数は、令和3年11月末現在で、試料の採取を依頼している機関を含めて30機関である。

ロ 令和3年産米の分析

① 早期分析(0次分析)のデータ解析

令和3年産米の早期酒造適性分析のための試料を酒類総合研究所に提供した(59点)。酒類総合研究所にて実施された酒造適性分析のデータ及び各支部からの造り初期の酒造概況、気象・収穫に関するデータを詳細に解析し、令和3年産米の性質の早期予測(0次)として令和3年12月7日付で関係者及び各支部に周知した。

② 1次分析

各支部において12月上旬までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次分析結果と併せ令和3年度産原料米の性質を予報し、令和3年12月16日付で日本酒造組合中央会会長及び各支部等に報告した。

③ 2次分析

各支部において3月末日までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次・1次結果と併せ合計85品種294点の結果を2次分析結果として、令和4年4月14日付で日本酒造組合中央会会長及び分析を担当した各支部等に報告した。

(4-2) ホームページ

酒米研究会ホームページ(<http://www.sakamai.jp/>)において、酒米分析結果のデータ及び結果概要を更新し、会員間で有効に活用された。